



妙高市立妙高高原北小学校

第11号

学校だより

令和4年2月25日

努力は必ず報われる

1月21日から新潟県に適用されている「まん延防止等重点措置」の延長が、3月6日までに決定したことによって、4年生以上の子供たちが課外活動の成果を試す場として楽しみにしていた二つの大会「のんちゃんスキー大会」と「信越学童親善スキー大会」が中止になりました。

信越学童親善スキー大会の中止を子供たちに知らせた日、「もしかして中止かなあ。」と考えていたとは思いますが、子供たちは残念な表情をしていました。当たり前ですよ。目標を立て、その目標を達成するために本気になって取り組んできた子供たちです。翌日、数人の6年生に「おうちの方と話をしましたか。」と尋ねました。すると、「目標は、信越ではないので次の大会を目指してがんばります。」「小学校で不完全燃焼だった分、中学校に行って部活を頑張ります。」と頼もしい声が返ってきました。次のステップに向けて、気持ちを新たに歩き始めている子供たちを感じ、とてもうれしくなりました。努力は必ず報われます。

さて、2月20日、北京オリンピックが閉幕しました。冬季オリンピックの中で過去最多の18個のメダルを獲得した日本選手団。その中には、地元妙高市出身の富田せな選手がいます。大けがを乗り越えての銅メダル獲得です。富田選手はメダル授与後、「今まで練習してきたことをやり切れて、この結果につながってよかった。」と話していました。練習や努力は、決して楽なものではありません。結果が出るまで努力した成果です。

また、秋田県では国民体育大会冬季大会「美の国あきた鹿角国体2022」が行われました。われらが先輩（高原北小卒業生）の大活躍の知らせが届きました。成年男子Bジャンプで清水礼留飛選手が優勝、兄の清水亜久里選手が成年男子B複合で優勝。同種目で曾根原郷選手が3位入賞。アルペン部のコーチをしてくださっている次井雄哉選手が成年男子B大回転で7位入賞。4人とも夢や目標に向かって努力し続けています。そんな先輩方の背中を子供たちにしっかりと伝えていきます。

信越学童親善スキー大会を目指して努力してきた子供たち。確かにこの大会が一つのゴールであったかもしれませんが、数日後には新たな目標を立てた子供のように、次なるゴールに向けてスタートしてほしいと願っています。努力は、必ず報われます。苦しいことから逃げ、簡単にあきらめて楽な道に進むのではなく、苦しい時に踏ん張れる、仲間とともに励まし合って乗り越えられる、そんな子供たちを育てていきたいです。運動だけでなく学習でも同じことだと思います。「毎日やるべきことはきちんとやる」一日一日の積み重ねが基礎学力の定着につながります。頑張る子供たちを教職員みんなまで応援していきます。

なかよしスノーフェスティバル

2月25日、青空なかよしスノーフェスティバルを行いました。雪に親しみ、雪を楽しむ。思う存分雪と関わる行事です。

例年、なかよし班（異学年交流）での活動を行っていますが、今年度は学年交流に切り替えました。また昨年、コミュニティスクール委員さんのご協力のもと、スキー汁をふるまっていたいただきましたが、感染拡大防止の点から今年度は断念しました。

子供たちは、雪玉的あてや巨大雪だるまづくり、雪積みなど、学年ごと（6年生は2チーム）に分かれてスノーチャレンジに挑戦しました。（当日の様子については、ホームページに写真を更新しますのでご覧ください。）

屋根の雪庇を落としています

今年度の豪雪、そして気象状況が重なり、校舎の雪庇が大変危険な状態になっています。2月12日より敷地内堆雪場の排雪を行い、雪庇落としに使用する重機が入りました。南側駐車場の雪庇落としが終わり、校舎屋根と玄関屋根に取り掛かります。



子供たちは、大きな重機が動くことに興奮しています。また、高所作業者に作業員が乗り込み、手作業で雪庇を落とす姿に「すごい」と驚いている様子です。子供たちの下校の際には、玄関で職員が誘導し、安全に十分配慮します。

学校に来校される方には、駐車場が大変狭くなっています。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

次亜塩素酸空間除菌脱臭機が設置されました

感染症対策として、すべての普通教室に Panasonic ジアイーノ（次亜塩素酸空間除菌脱臭）が設置されました。設置された機器は、安全性が十分に検証されていますが、次亜塩素酸を使用することに関して、市教育委員会等へ心配されるご意見も寄せられています。そこで、機器の使用は、放課後、児童が下校してから翌朝までの時間帯で使用していきます。



学校の様子や子供たちの活動の詳細については、学校ホームページを活用させていただきます。

ぜひホームページをご覧ください。

